

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	・「学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例」
-------	---

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県沼津市

○学校名

沼津市立大岡小学校

○学校のURL

<http://www.numazu-szo.ed.jp/ooka-e/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1, 2, 4, 6年生各3学級、3, 5年生各2学級、【特別支援学級】2学級

○児童生徒数

【全児童数】464人（平成25年11月8日現在）
（内訳：1年生83人、2年生72人、3年生74人、4年生81人、5年生73人、6年生81人、特別支援学級児童含む）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「自分のよさをのばし、仲間と共に育つ岡っ子」

〈願う子ども像〉

- 「本気」学習の楽しさを知り、本気になって取り組む子
- 「根気」めあてをもって根気強くやりとげる子
- 「勇気」自分の考えを勇気をもって表現できる子
- 「元気」失敗をおそれず元気よく挑戦していく子

【人権教育に関する目標】

「自他の人権を尊重する態度や行動の育成」

○人権教育にかかる取組の全体概要

○態度や行動に表れる確かな人権感覚の育成

- 〈学習指導〉 ・分かる、できる、楽しい授業を通して、自分の良さを伸ばし、進んで学習する子を育てる。
- 〈道徳の時間〉 ・思いやりの心を持って協力し、良いと思ったことを進んで取り組む子を育てる。
- 〈特別活動〉 ・互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活をめざし、進んで活動する子を育てる。
- 〈総合的な学習の時間〉 ・積極的に課題を見つけ、追求し、進んで表現する子を育てる。

○一人一人の個性を大切にした教育・学校運営

- ・自由に発言、相談できる安心で、信頼感のある環境作り
- ・教職員の人権感覚の向上
- ・児童一人一人の個性を生かす指導や授業法の工夫、研修の推進

3. 特色ある実践事例の内容

◆児童会活動におけるいじめのない人間関係づくりへの取組

(1) 取組のねらい、目的

①児童会活動の目的

学校生活を楽しく豊かなものにするために、学校生活に関する諸問題を解決する活動や学校内の自分たちの仕事を分担処理する活動を自発的、自治的に行う。

②「ありがとう運動」の目的

いじめをなくすために、ただ単にいじめをなくそうと言うのではなく、感謝し合うことをクローズアップさせ、よりよい人間関係を築いていこうとする取組である。

(2) 取組を始めたきっかけ

本校では、いじめアンケートやいじめ防止対策についての研修会など、職員側の取組の他に、児童が主体となって挨拶運動や福祉活動も行っている。その一環として、今まで取り組んだことのない活動のアイデアを児童会中心に話し合い、まとめたところ、お互いに感謝し合って楽しい友達関係を築くために「ありがとう」という言葉をキーワードにしたらよいのでは、という意見が児童から出てきたのが始まりである。

(3) 取組の内容

「ありがとう運動」について

①代表委員会で話し合い、共通理解を図った後、児童会便り「岡っ子」を通して、全校児童に呼びかける。

②各クラスで「周りの人（特に学級内や学校内）」に感謝することを呼びかけるス

ローガンについて話し合い、掲示する。

- ③ありがとうカードに、ありがとうを言ったり言われたりしたらシールを貼り、視覚的に、感謝し合う様子を確認する。

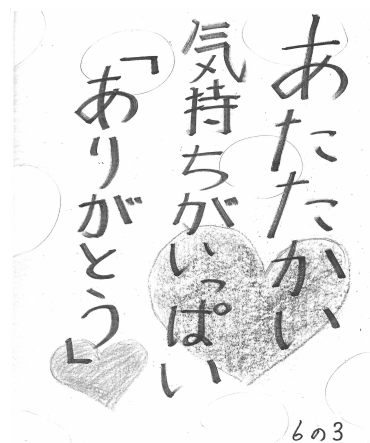
スローガン

- 1年** 友達に優しく仲良くしよう。
進んで良いことをして、「ありがとう」の輪を広げよう。
- 2年** やさしさいっぱい大岡小。
友達を大切に譲り合おう。
- 3年** 助け合って笑顔になろう。
「ありがとう」その一言で、
いい気持ち。
- 4年** 「ありがとう」君の言葉を
忘れない。
「ありがとう」でみんなを
明るく照らし出す。
心を込めて、言葉に出そう
「ありがとう」。
- 5年** 心豊かに「ありがとう」。
「ありがとう」心が晴れ晴れ
- 6年** 「ありがとう」心がつなぐ思いやり。
優しくされたらやり返す。倍返しだ！
温かい気持ちがいっぱい「ありがとう」。
- 特別支援学級** 優しい言葉で話をしよう。



② ありがとうクオカードを配布します。帰りの会で、「ありがとう」と言われたら、言っ
た人に書いて半分以上手があがたら、シ
ールを貼ってください。

ありがとう運動について
先日、代表委員会、ありがとう運動
行こうと決まりました。
各クラスに画用紙を配布するので、
クラスで、みんなが優しくなるためのスロ
ーガンを考えて大きく書いてください。
20日の昼休みに、企画委員会画用紙を取
りに行くので、それまでに、仕上げてくだ
さい。



6の3

- (4) 取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫
課題

・感謝するという内容を重視せず、「ありがとう」という言葉の表面だけにとらわ
れてしまうこと。

工夫

・「ありがとう」という内容について、学級会や道徳の時間を使って話し合い、ク
ラスでの共通理解を図ると共に、お互いに感謝する人間関係についても考える時
間や場を設定する。

4. 実践事例の実績、実施による効果

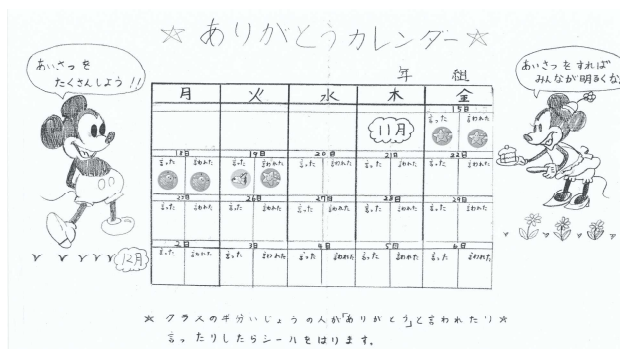
(1) 取組の実績

・スローガン作りでは、各クラスで、前向きに話し合うことができ、また現在の

自分たちの友達に対する態度を振り返る場にもなった。話し合いでは、ひどい言葉遣いをしている、自分勝手な行動をとってしまった、「ありがとう」「ごめんなさい」とお互いあまり言っていないなどの反省の様子が見られた。

(2) 実施による効果

- ・スローガンを意識して普段の行動に気をつける様子が見られた。
- ・ありがとうカードにシールを貼ることを目標に、「ありがとう」と口に出して友達に声をかけるようになってきた。
- ・帰りの会でありがとうカードを話題にすることによって、1日の振り返りができるようになってきた。



5. 実践事例についての評価

(1) 取組についての評価、及びその評価する理由

お互いに感謝するためのスローガン作りやありがとうカードを通して、普段の生活の振り返りや「ありがとう」の言葉の意味を考えることなどができたのがとてもよかった。

カードにシールを貼りたいという動機だけでも、「ありがとう」という言葉を何回も言っている内に、とてもよい表情が児童に見られるようになってきたので、まず、口に出して「ありがとう」と言うことが大切だと教師も再認識させられた。

(2) 現在、実施にあたって課題と感じていること

現在、ありがとう月間なので、職員も児童も意識して取り組んでいるが、今後、継続して続けていくことや、感謝し合うよりよい人間関係を更に築き、定着させていくことが課題である。

